

2009.5.2.9:30AM 記

○ ヒト-ヒト感染 複数国で確認 フェーズ 6 も間近か？

WHO は日本時間 4 月 30 日早朝にフェーズを 5 に引き上げた。しかし、メキシコに加え、アメリカ国内でもヒト-ヒト感染が確認されたからである。さらにニュース等によると、ドイツ、スコットランド国内でもヒト-ヒト感染と思われるケース（メキシコ等についておらず、国内で感染者との接触あり）があった。韓国でも確定患者に空港から修道院まで同伴したヒトが発症した模様。

[分析]

既にフェーズ 6 の状態に至ったと考えてよい。WHO は経済ダメージに配慮してか、判断が遅れ気味である。世界は実質的にフェーズ 6 の段階に入ったと考え、日本は対策をとるべきである。

*幸い、5 月 2 日昼現在、日本国内では新型インフルエンザの発生は確認されていない。

*メキシコ以外の国での死亡例は報告されていない（アメリカで死亡したメキシコ人幼児を除く）

○ 医療従事者の 2 次感染 世界的な感染拡大を示す可能性あり

① ドイツ保健省は 1 日、南部バイエルン州で新型インフルエンザ患者の看護にあたった女性看護師 1 人が新型インフルエンザに感染したと発表

② アメリカ・シアトルでは 4 月 30 日、小児科勤務医が新型インフルエンザに感染した疑いがあると発表した。この小児科医師は発症後に 22 人の患者を診察している。

[分析]

1) 医療従事者が感染するという事は、多くの方が免疫を持っていない可能性を示唆している。このことは、世界中のヒトが感染する可能性を示唆している。

2) 医療従事者が感染すると、病院が感染拡大を加速する可能性がある。そもそも抵抗力の弱い患者に接する機会の多い医療従事者が感染するので、その影響は大きい。

○ メキシコの状況

<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm58d0430a2.htm>

4 月 30 日付発表の MMRW を示す。

3 月 1 日から 4 月 30 日までで疑い例 1918 人、インフルエンザ A 型陽性 286 人、新型確定例 97 例と発表した。

疑い例：発熱、咳、呼吸苦を伴う重症呼吸器疾患

可能性例：疑い例で迅速診断キットなどによりインフルエンザA型が陽性（この場合、H3N2（香港型）、H1N1（ソ連型）などの季節性インフルエンザを否定できない）。

確定例：RT-PCRなどで豚インフルエンザ起因豚インフルエンザと診断

初期メキシコ政府の発表とかなり隔たりがあるように思われる。特に 26 日の発表では、患者数 1614 人（死者 103 人）であり、翌日の発表では 1995 人（死亡 149 人）と発表されていた。1 日で 381 人増加（死者 46 人）していることになる。一方、下記の報告を見ると 4 月 22 日、23 日が患者発生のピークであり、翌日より新規患者発生数は減少に転じ、26 日には 10 人を切っている。

この差は、MMRW の報告では、疑い例も呼吸苦を伴う重症としているため、このような差を生じたのであろう。既にそのようなデータのとり方をしていたのであれば、そちらのデータも合わせて公表すべきだったのではないだろうか？

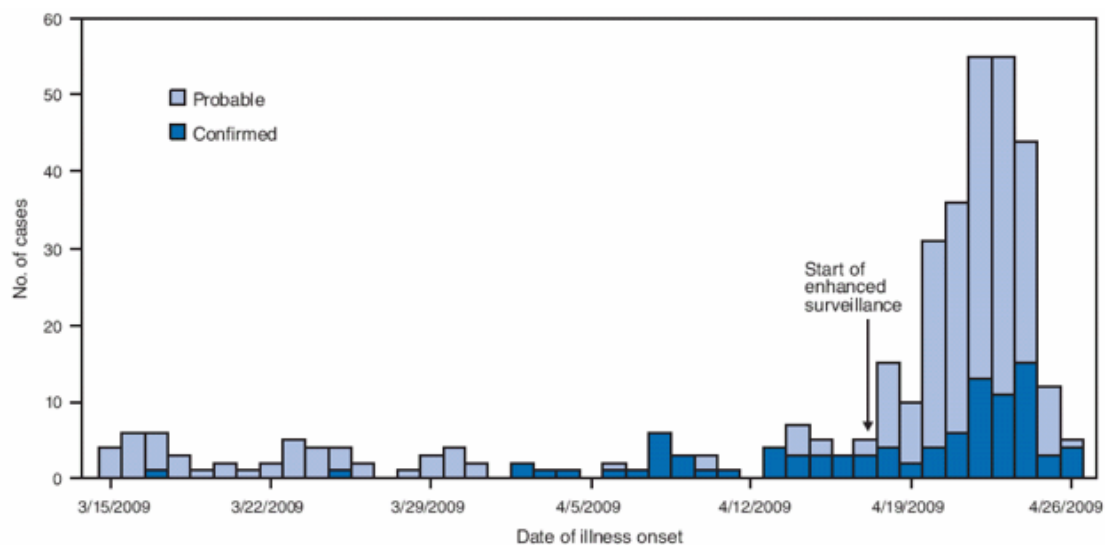
未だに WIKIPEDIA などとは数値の乖離がみられる：5 月 2 日

メキシコ 確定例：397 例（死亡 16 例；死亡率 4%）、

疑い例 2500 例以上（死亡 168 例；死亡率 6.7%）

http://en.wikipedia.org/wiki/2009_H1N1_flu_outbreak

MMRW data をみる限り、メキシコが注目されたときには既に感染流行は終息しつつあることになる。



再度メキシコがどのような対策をとったか振り返る

4月12日 疫学担当官が Veracruz 州で発生しているインフルエンザ様疾患のアウトブレイクについて Pan American Health Organization (PAHO)に報告

4月17日 Oaxaca 集での非定型肺炎の1例報告をきっかけにメキシコ全土の監視を強化
病院には重症呼吸器疾患を全例報告
発症72時間以内の検体採取
翌日疫学担当官スタッフは21のメキシコ国内の病院を視察

4月23日 複数例から豚インフルエンザ由来の新型インフルエンザが検出された旨、PAHOに連絡が入る。空港での監視強化

4月24日 医療従事者への季節性ワクチンの実施

4月25日 疑い例の自宅隔離を法制化

4月26日 メキシコ国内での新型インフルエンザ診断能力を樹立

4月27日 メキシコ国内学校閉鎖

[分析]

患者を早期に隔離し、伝播を阻止することができれば比較的早期に封じ込めができる可能性を示唆している。監視強化を含む本格的対策に乗り出してから、からおよそ1週間で終息傾向を示したからである。

日本においても患者早期発見、早期隔離が重要である。